

第2回定例会質疑

2021・6・23

(猿渡 県議)

まず県政諸般の報告について、その一つ目として、PCR等検査体制の充実について伺います。

新型コロナウイルスを封じ込めるためには、ワクチン接種を急ぐとともに、これまでも繰り返し求めてきたように、高齢者施設、障がい者施設等に対する社会的検査を抜本的に拡充することと、無症状者に焦点を当てた大規模検査で感染を封じ込めることが重要と考えています。

東京大学の児玉龍彦名誉教授は「街の中の無症状者を検査で見つけ減らすのが対策の主戦場だ」と訴えています。

広島県では、4月に入って実施した全県モニタリング検査で5月上旬までに約3万4000人を検査し、130人以上の無症状者を発見したとのことでした。

大分市や別府市・宇佐市では、PCR検査センターや抗原検査センターを設置するなどの動きが広がっています。このような取り組みを県として支援することが必要ではないでしょうか。

加えて、県が率先して無症状者も利用できるPCR検査センターを設置するなど、幅広く検査を行う取り組みを進めていくべきだと考えます。

また、迅速診断キットを保育園などの福祉関係の事業所や、学校に配布したことは評価しますが、放課後児童クラブには配布していません。

放課後児童クラブは、学校の臨時休業中も苦勞しながら、役割を果たしてきました。クラスや学年が違う子供たちが一緒に過ごしたり、夏休みなどに長時間過ごす放課後児童クラブは体制的にも弱く、感染リスクが高いので、学校並みに位置づけるべきだと思います。

市町村として配布する自治体もありますが、県として配布し支援員を中心に活用できるように体制を整えるべきだと考えます。併せて県の見解を伺います。

二つ目にコロナ渦の東京オリパラの事前キャンプについて伺います。

知事は県政諸般の報告において「全国的には都市部を中心に、緊急事態が続いており、また新たな変異株の脅威も心配され、今後も油断できない」と見解を述べていらっしゃいます。

まさにその都市部で実施されようとしているのが、東京オリンピック・パラリンピックです。

東京オリパラは中止すべきだ、新型コロナ対策と五輪は両立できない、感染症対策に全力を集中すべきだと、日本共産党は1月から繰り返し国などに求めてきました。

大分県として、東京オリンピック・パラリンピックの中止を国に求めるべきだと考えます。

6月19・20日の朝日新聞の世論調査では、中止と再延期を望む声を合わせると62%、オリパラの開催によるコロナ感染再拡大に不安を感じるが83%、共同通信の同時期の世論調査では、ある程度不安を含め、不安を感じるが86.7%に上ります。

どの調査でも不安の声が大変大きい状況です。政府などは観客の上限を 1 万人と決めたことですが、感染爆発の大きなリスクがある上、医療への多大な負荷をかけるものです。国民の命を最優先し、感染症の封じ込めに全力を挙げるべき時です。大分県内での事前キャンプも予定されていますが、このような状況の中では、オリンピック・パラリンピックは中止しかないと考えます。大分県の見解を求めます。

(知事)

PCR等検査体制の拡充についてお答え申し上げます。

県内の感染状況は、県民の皆様のご協力によりまして、おかげさまで 1 日あたりの新規感染者数が今月 4 日以降は一桁が続くなど落ち着いてまいりました。

改善の要因の一つは、迅速な検査による積極的疫学調査の徹底と考えます。本県では、感染者の行動履歴等を丁寧に聞き取り、接触者等を速やかに把握するとともに、幅広く PCR 検査を実施しております。そして、感染の原因を突き止め、留意すべき点を随時判断し、県民への呼びかけを行っております。

無症状者への大規模 PCR 検査につきましては、専門家の見解では、市中における感染状況の把握には一定の効果がありますけれども、感染拡大の防止には、週 2 回以上の検査が必要と言われております。

このため本県では、限られた検査能力や費用対効果等も踏まえまして、PCR 検査は症状のある方を対象としています。

その上で、ひとたび感染が確認されれば、濃厚接触者のみならず、周辺の接触者に対しまして、無症状者を含め、幅広く検査を実施しております。高齢者施設や学校等でクラスターが発生した際もこうした検査を何度も繰り返すことによりまして、その封じ込めに成功しているところであります。

抗原検査につきましても、大分駅前の大分市抗原検査センターにおいて、感染者の発見に一定の成果を上げておりますけれども、これも陽性者の大部分は症状のある方と伺っています。

抗原検査は、症状が出た時点での速やかな検査が有効であることから、県ではクラスターの早期探知のため、今年 2 月に抗原検査キットを高齢者等の入所施設に配布し、施設内でただちに検査できる体制を整えました。

さらに先月には、若年層にも感染が広がりやすい変異株の特性を踏まえまして、小中高校に加え、市町村には幼稚園、保育園向けの検査キットを配布したところであります。この検査キットは、放課後児童クラブでもお使いいただけるようにしております。

新型コロナウイルス感染症への切り札となるワクチン接種につきましても、県営接種センターにおいて、幼稚園教諭、保育士に加えまして、放課後児童クラブ支援員も接種対象としておりまして、8 月中の接種完了を目指します。

国内では、さらに感染力が増した新たな変異株の出現もありまして、依然として油断のできない状況が続きます。今後とも、一日も早い感染の収束に向けて、臨機の対策とワクチンの早期接種に全力を挙げて取り組んでおります。

(企画振興部長)

コロナ禍の東京オリパラ事前キャンプについてお答えいたします。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に向けて、選手の皆様、日々鍛錬を積み重ねており、大会はその努力を発揮する場となります。

大会の運営主体となる I O C ・ I P C 東京 2020 組織委員会は、安全・安心な大会の開催に向けて、選手などすべての大会関係者に、新型コロナウイルス感染症対策を定めたプレイブックを示し、これの遵守を求めています。

例えば、選手などは出国前 96 時間以内に 2 回、そのうち 1 回は 72 時間以内にそれぞれ P C R 検査を受け、陰性を確認した上で日本へ入国します。

入国後の 14 日間、毎日 P C R 検査を受け、健康フォローアップを行わなければなりません。

事前キャンプでは、選手などの行動はホテルと練習場間のみ限定し、その際には、専用バスで移動するなど、他者との接触を可能な限り回避することにしております。

県としましては、安全・安心の確保を第一に、しっかりと対策を講じながら、世界のトップアスリートによる事前キャンプを実施し、さらなるスポーツ合宿を呼び込み、地域活性化や国際交流の進展につなげて参ります。

(猿渡 県議)

迅速診断キット放課後児童クラブにということで安心しました。

デルタ株についても、衛生環境研究センターで検査できるようになったとのことで、これもよかったと思います。

この衛生環境研究センター、衛環研の体制強化を私たち求めていきましたけれども、増員などが行われたのでしょうか。

保健所や衛環研・本庁などを含めて、増員したり応援体制とったりしているかと思えますけれども、そういう中でも第 4 波までもかなりの長時間労働されていると思うんですね。その時間外勤務の実態について、ご説明いただきたいと思えます。

それから入国した選手に、今説明いただいたような体制とっても、陽性者が出ていますが、検査やゲノム解析の充実や、検疫や検査の強化、また、入国者の停留期間を 2 週間に延長するなど水際対策の強化を国に求めるべきだと思えます。この点で知事の見解をお聞かせいただきたいと思えます。

オリパラについて、オリパラの強行で命を危険にさらすべきではないと思えます。これもギャンブルみたいなものです。大分県として、声をやはり上げるべきだと、国の言いなりでは駄目だと思えます。

政治判断で、迫っている時期ですけれどもいつでも中止することはできると考えています。命より大切なものはありません。

また事前キャンプで大分県内に来る選手など関係者、合わせて 224 人と聞いていますが、毎日 P C R 検査をすとのことです。

私たちは、介護従事者などへの社会的検査を繰り返し求めてきて、限られた検査能力云々と今、知事も答弁いただきましたけれども、そういう中で、社会的検査までには至ってい

ないそんな中で、オリパラ関係は毎日検査できるのかと矛盾を感じます。

介護従事者など一般にも、やはり検査を充実すべきだと思います。

別府市のPCR検査センターは、8月末までの予定ですが、県として無症状者も利用できるPCR検査センターを設置するなど、またその委託なども含めて幅広く検査する体制をさらに充実すべきと考えます。再度見解を求めます。

(総務部長)

まず私の方から、PCR検査を行います衛生環境研究センターの超過勤務の実態についてお答えいたします。

令和2年度の衛生環境研究センターの1人当たりの、ひと月の時間外勤務時間数は11.3時間となっております。

コロナの影響はそれほどない令和元年度が、ひと月当たり6.4時間でしたので、4.9時間の増という状況になっております。

衛生環境研究センターにつきましては職員を兼務配置で増員しておりまして、例えば令和2年4月には、準職員を15名兼務職員配置するなど検査体制の強化を図っているところでございます。

(企画振興部長)

まず、水際対策を政府にしっかりするということでございます。本当おっしゃる通りだと思います。

安全対策をしっかりとすることが、安全・安心の大会に繋がるということでもありますので、もうそこは基本中の基本だろうと思っております。しっかりやっていただきたいと思っています。

オリパラについては命の危険にさらすのではないかとということでございますが、ただ一方で、パラリンピックに出場する選手の中には、自分が出場して懸命に競技する姿を同じような境遇にある方に見てもらい、何かを感じてもらいたい。或いは自分たちのことに対する理解を世間の方にもっと深めてもらいたいというような思いを持って主張される選手もいるのではないかなというふうに思っています。

PCRを毎日やるということについて、限られた検査体制の中でできるかということでございますけれども、今、選手等への毎日のPCR検査については、県外の検査機関に委託をするということです。

(福祉保健部長)

社会的検査を幅広くやるべきではないかとご質問でございます。先ほど知事からも答弁をいたしましたように無症状者へのPCR検査の効果を考えますと、例えば広島県で、無症状者も含めて幅広くPCR検査を行った結果が、無症状者の場合の陽性率が1%に満たない。有症状者の陽性率が9%近いということで、約10倍ほどの違いがございます。

従ってそういう感染防止対策のためには、そもそもPCR検査を週に2日程度、頻繁にやる必要がある。

なおかつ無症状者に対するPCR検査は、今申し上げましたように、非常にヒットする確率が低いということで、限られた検査能力や費用対効果を考えますと、やはりなかなか難しい。

その代わり、福祉施設、高齢者施設等で、もしも陽性の患者が出ればその周辺の従事者、或いは入所者も含めて、何度も繰り返しPCR検査を今行っております。

そういった形でやるのが一番効果的ではないかというふうに考えています。

(猿渡 県議)

オリパラについてはアスリートにとってもフェアな大会にならないと私は考えています。

次に、一般会計補正予算についてです。

今回の補正予算には、ホーバークラフトの購入費などが提案されています。新しいホーバーはバリアフリーだと言いながらも、車椅子のまま乗れるのは1人だという説明を受けました。車椅子1台分しかないというのは、余りにも少なすぎる。論外だと思います。

県民の税金を80億円前後も使って行う事業であり、一艘14億円もかけて購入をするのですから、県民の利益と福祉の向上に役立つものにしなければならないと思います。

いろいろな障がいを持つ当事者の皆さんのご意見を聞いて、具体的なご意見をしっかり生かして事業を進めるべきであり、改善を求めます。

(企画振興部長)

ホーバークラフトの導入に当たりましては、高齢者や障がい者などの利便性を確保するとともに、運航事業者の経営面にも配慮する必要があると考えております。

今回調達するホーバークラフトには、障がい者等に配慮し、車椅子スペースを確保するとともに、車椅子から移動可能で、高齢者や妊産婦にも配慮したバリアフリー客席を設けるなど、国の基準を上回る対応を予定しております。

その他、乗り降りしやすいスロープの設置や、船内の段差の解消など、障がい者等の円滑な利用が図られるようにしていきたいと思っております。

いずれにしましても、今後、造船事業者を決定し、船舶の設計を進める中で、運航事業者や障がい者団体などの意見も伺いながら、バリアフリー対策を進めていきたいと思う。

(猿渡 県議)

これまで障害を持つ皆さん方が、「空港バスでは車椅子の利用者の使用が困難だ」と一生懸命声を上げてきました。

そういう中で、車椅子1台分でバリアフリーですとは自信持って言えないと思っております。障がい者、高齢者の方の活動範囲、今後一層広がると思っております。乗降用のスロープ、80センチ以上と聞いていますが、大きい車椅子は80センチではぎりぎりだと、今後、電動車椅子が主流になるので障がい者団体としては85センチ以上を求めていると聞いています。この点も改善すべきだと思っております。

車椅子専用スペースは、一つであっても、折り畳み式の座席を必要に応じて折り畳んで

車椅子のスペース作るというふうなことも考えられると思う。

そういうふうなことも考えて、必要に応じて車椅子スペースを確保する、十分に確保できるようにすべきだと考えますがいかがでしょうか。

ある障害者の方 197 号線や新しい別府港の事業については、身体障害や視覚障害内部障害など、いろいろな障害を持つ当事者と一緒に現場を歩いてヒアリングしながら事業を進めている。ホーバーの事業はなぜこういうやり方しないのという声を聞いています。

障害のある人もない人も心豊かに暮らせる大分県条例持つ県として、当事者関係者の具体的な意見を十分反映し、多様性を尊重したものにするよう併せ求め再答弁を求めます。

(企画振興部長)

今いろいろご指摘をいただきました。そういうことも含めまして、これからしっかりバリアフリー対策というのを進めて、本当に皆さんに使っていただけるホーバークラフトにしていきたいと思います。